資料　4

調布市立小・中学校プールのあり方に係る基本的な考え方（素案）

1　検討の経緯・背景

高度経済成長期から昭和５０年代にかけて集中的に整備した学校施設の多くが築後４０年以上経過し老朽化が進んでいます。学校施設は公共施設の総延床面積の半数以上を占めており公共施設マネジメントの取組全体の中で重要な位置を占めています。

また、学校施設を取り巻く環境は、不足教室対策や近年の猛暑への対応など複雑かつ多様化しています。

特に学校の屋外プールでの水泳授業に関しては、猛暑の影響で授業の計画的な実施が困難になるなど適正に教育課程を編成する上で大きな影響を及ぼしており、児童生徒にとって、より安全かつ安心な学習環境を確保することは重要な課題となっています。

一方で、市内２８校全ての学校プール施設について、老朽化に伴う施設の更新を含めた維持管理費用に関しては、市の財政負担の比重が非常に大きいため、公共施設マネジメントの取組全体の中で、中・長期的な視点による計画的な整備が必要です。

これらを踏まえ、学校プールのあり方に係る基本的な考え方を整理することとしました。

2　これまでの主な取組

【プール施設に関すること】

市内公立小中学校２８校全てに学校プール施設が整備されており、屋内プールを保有する調和小学校以外の２７校は屋外プールです。これまでプール水槽や水質を保つための循環浄化装置などの設備については予防保全の観点からそれぞれの耐用年数を踏まえた改修を行っています。

〈プール水槽等の改修〉
概ね１５年を耐用年数として期間内に水槽の更新やシート張替え等の実施

〈循環浄化装置改修〉
水質管理を適切に行うための循環浄化設備の改修実施

〈シャワーの温水化〉
シャワー水栓の更新と併せ、ガス給湯器を設置したシャワーの温水化を実施

〈日除けの設置〉
紫外線対策としたプールサイド上部への日除けの設置

【水泳授業に関すること】
- 天候等による水泳授業中止に対応するため、水泳授業を前倒して６月初旬から開始
- 調和小学校の屋内プールを利用した外部指導員による授業補助形態の効果検証

3　主要な課題等

〇学校プール施設の老朽化に伴う維持管理コストの上昇
- 近年の人手不足や物価高騰や社会情勢の変化による影響

〇老朽化した複数施設における更新時期の重複
- 更新時期が重なるため単年度に発生する財政負担の偏り

〇更新に係る諸費用の高騰
- 屋外プール更新（約４億円）、屋内プール整備（約１６億円）

〇環境の変化に伴う児童生徒の安全確保
- 児童生徒の健康被害対策
- 屋外プールでの水泳授業における猛暑への対応

〇環境変化に対応した学校プールでの水泳授業の継続

〇教員の負担
- 水位や水質などの日常の維持管理
- 水泳指導を専門としない教員の指導

4　学校プールの現状と今後のあり方に関する課題整理のポイント

現状	課題整理のポイント
・夏季期間中における屋外プールでの水泳授業を実施（屋内プールの調和小学校は除く） ・教員が屋外プールの水質や水位を管理 ・水泳指導を専門としない教員による指導	・昨今の環境の変化に伴う水泳授業の実施方法の検討 ・近隣校が調和小学校の屋内プールで外部指導員による水泳授業補助を受ける形態の効果検証
気候変動に起因する猛暑への有効な対応策がない ※児童生徒の安全確保が困難となっている	・水泳授業時間の安定的・計画的な確保 ・屋外プールでの水泳授業における児童生徒に対する安全確保に向けた抜本的な対策
屋外プールの維持管理に係る諸費用の高騰	耐用年数を踏まえた施設及び設備の維持保全に係る費用の削減
屋外プール更新に係る諸費用の高騰及び更新時期の集中による財政負担への懸念	・これまでの維持管理及び更新の方向性の転換 ・財政負担の平準化 ・財源の確保及び整備手法における費用対効果の検証

5　学校プールのあり方に係る基本的な考え方

【プール施設の更新】
〇プール施設の更新を行う場合は、屋内プール施設として更新
〇新たな屋内プール施設は、近隣の小中学校の状況を踏まえ、４～５校の複数校で使用できる拠点校としての整備

【屋内プール施設整備までの水泳授業】
〇拠点校の屋内プール施設が整備されるまでは、既存の公共や民間事業者の保有する屋内プールで外部指導員を配置した水泳授業を実施

【今後の屋外プール施設】
〇既に調和小学校屋内プールで水泳授業を実施している学校及び屋内プールの更新が決定したグループ校の既存屋外プール施設を順次解体
〇解体後のスペースは、拠点校への送迎バスの発着場所などとして有効利用